

国大化学会はこれでいく

—国大化学会 2 ヶ年事業基本計画—

国大化学会 会長 樋口 修一郎（昭和 35 年応化 2 部卒）

新たに発足した〈国大化学会〉はどのような動きをしていくのか。新同窓会の役員の任期が 2 年であることから、〈国大化学会 2 ヶ年事業基本計画〉として示した。〈国大化学会はこれでいく〉という宣言である。

1. 新同窓会のスムーズな立ち上げ

異なる 3 つの同窓会を統合したので、まずはスムーズに新同窓会〈国大化学会〉を立ち上げることが最重要課題である。さらに、ここで強く留意すべきは 3 会一体化止まりではなく、学生会員や新たに会員となっていた卒業生ではない学内教職員までを含めた〈ミックス 4〉の視点である。とりわけ、当面年度にあっては、

- ① 役員会等を基準より頻度を多く開催しつつ、必要に応じ WG や委員会等を設置してスピーディーな企画・立案・実行を図り、新同窓会の動きが肌で感じられるよう早期立ち上げを期す。
- ② 新同窓会の当面の活動と目指す方向を順次具体的に明確化しつつ、強固な執行組織体制を構築していく（執行組織と業務担当を別表に示す）。
- ③ 役員にあっては、リーダーシップの発揮と総意の把握というバランス感覚を以って、積極的に改革を推進する。
- ④ 若手会員に担っていただく役割を明示して、その遂行を委ねていく。

こととする。また、3 同窓会が一体化されたことに鑑み、

- ⑤ 今までの 3 同窓会夫々の運営・活動のしかたの〈良いとこ取り〉の実践を積極的に進めていく。

2. 事務局機能の改革・一本化

7 千人弱の会員を擁する同窓会の事務局機能として、

- ① 住所・勤務先等の会員情報管理や会費の請求・収受、さらに会誌の発送等のトータル管理のやり方を一本化する。
- ② それに基づきパソコンシステムを再構築して、効率化の実を具現化していく。
- ③ 大学が卒業生との連携強化の一環として、卒業時

に卒業生の情報を把握していく運びであるので、この情報の活用を図る。

ことが急務である。また、

- ④ 伝統ある横浜応化会や横浜電化材化会の会員にあっては、新同窓会に移行することで、愛着と歴史のある会の名称の消滅もあることから、新同窓会への帰属意識の低下が危惧されるところである。これが参画意識の低下や会費納入の減少につながることをならないよう、強力な策を講じていく。

ことも必須とされる。

3. 会員への情報提供の充実強化

会員に新同窓会の風を感じてもらい、且つ会員とのツーウェイコミュニケーションの強化並びに学生を含む学内会員への的確な情報提供を図るべく、

- ① 会誌は年度に 2 回以上発行する。
- ② 3 同窓会のホームページを一本化し、内容充実と随時更新を図る。
- ③ 会員名簿は 3 年度に 1 回以上発行する。等を実践していく。

4. 大学との連携強化

全学的に大学・学生・教職員・卒業生の連携を深め、ホームカミングデー等のイベントを実行していく運びの中で、その推進役を担うとともに、

- ① 会員にはホームカミングデー等への参加を強力に働きかけ、同窓会のみならず、大学や学生についての理解と親近感を深めて頂く。
- ② 新設した〈大学支援基金〉を活用しての支援について、大学側の要望も含めて具体化を図る。
- ③ 全学的にも高く評価されている〈OB と語る会〉をさらに充実させて運用していく中で、講師の若手化も図る。また、OB と語る会の講師経験者の組織化・サポート役化についても検討していく。

等の当同窓会固有の〈カンバン活動〉を強化して、

- ④ 〈大学に貢献したい・すべきである〉という会員の強い意向に沿っていくことで、会員の参加・貢献意識の高揚を図り、活性化の原点とする。ことを期していく。

5. 総会・懇親会

総会・懇親会の持ち方について早急に検討を深めて新しい総会・懇親会像を明確にしていく。この際に考慮すべき点としては、

- 開催場所……学内か、学外か
- 開催時期……大学祭・ホームカミングデーとの関連も含めて
- 講演会
- 懇親会でのコミュニケーション強化等が挙げられる。

6. 会員皆で

- ① 会の運営の原点として〈同窓会活動は会員皆で〉を常に実践していく。
- ② その一環として、別表の執行組織体制のグループごとに必要に応じてWG等を設け、クラス幹事等にこのメンバーとなって頂くこととする。
- ③ 3同窓会が統合された後でも工学部に10も存する〈学科別同窓会〉の統合の牽引役を果たしていく。

国大化学会組織と業務担当表

組織区分 (Gはグループ)	担 当	立ち上げ時課題
会 長	◦ 会務統括	◦ スムースな立ち上げ
副会長	◦ 会長補佐 ◦ 渉外	◦ スムースな立ち上げ
企 画 G	◦ 諸会議（役員会・クラス幹事会・顧問会等） ◦ 大学支援基金運用（庶務・会計 G も協力）	◦ 顧問の確定・通知 ◦ 役員会等の開催基準 ◦ 支援基金額の確定・運用基準
会費納入促進 G	◦ 会費収入・寄付収入増強策	◦ 会誌送付時（3月）同封請求書対応
会誌・名簿 G	◦ 会誌の発行 ◦ 名簿の発行	◦ 会誌のスタイル ◦ 名称
総会・懇親会 G	◦ 総会・講演会・懇親会 ◦ ホームカミングデー	◦ ホームカミングデー（11月第2土開催決定）と総会等との関連
ホームページ G	◦ ホームページの維持管理・更新	◦ 会誌での周知
庶務・会計 G	◦ 会員管理 ◦ 予算 ◦ 会費・寄付の收受、会計、決算 ◦ 事務局庶務 ◦ OB と語る会	◦ 平成 19 年度予算策定 ◦ 会費・懇親会費等の收受基準の統一
監 査	◦ 決算監査	◦ 4月発足時資産状況確認

* アドバイザー：コンピューターシステム関連

国大化学会設立の軌跡

庶務・会計 G 關 金一 (昭和 56 年応化卒)

本年 4 月に横浜応化会、横浜電化材化会、横国化学会の化学系同窓会を継承統合する横浜国立大学工学部化学系同窓会 (国大化学会) の設立にあたり、今後の国大化学会のあり方を考える上での資料とすべく、設立準備にあたってきた者として、ここにその経緯をまとめ報告いたします。初め統合化にあたり並々ならぬ御尽力いただいた 3 同窓会の会長を始とする関係者ならびに WG の方々に、ここで改めて感謝の意を表します。

横浜応化会および横浜電化材化会の統合は平成元年の応用化学科と材料化学科が工学部の改組により、他の化学系 2 学科と合体し、物質工学科ができたときからの必然ともいえる出来事でした。統合化の動きが実際に起きたのは、応化会副会長の中山先生が平成 12 年ごろ、平成以降の物質工学科卒同窓生の今後に対する憂慮から、新同窓会設立の御提案から始まっています。その提案を基に平成 15 年 11 月に「横国化学会」が初代会長 禪知明氏 (平成元年卒) の元、発足の運びとなりました。このとき、横国化学会は、横浜応化会、横浜電化材化会の継承同窓会であり、将来は両同窓会も発展的に統合していくとの了解がありました。

横国化学会発足後、4 年半たち今回の統合となったわけで、順調な統合化の道のみかけは歩んできたようですが、実は此処までの道のりは平坦ではありませんでした。その後 3 同窓会はそれぞれの課題を抱えたまま、運営をされてきましたが、その問題点は、

- 1) 応化会、電化材化会は従来の同窓会活動を続けるだけで、将来の方向が見えない。現役学生との接点なくなるため、大学とのつながりが稀有になる。
- 2) 横国化学会としては従来、若年層の同窓会活動の意識低下があり、それに加えて、同窓会の活動の中心であった OB のサポートがなくなり、運営に支障をきたしてきた。実際の活動は学内若手教員のボランティア活動が中心で、限界が見えてきた。
- 3) 事務組織が 3 つの会を独立運営するため、非効率化している。具体的には総会、幹事会の開催、会誌の発行など同様な事業が独立して運営されるため、事務量が膨大化した。

などでした。

具体的な設立までの軌跡はそれぞれの会誌で取り上げられていますが、以下年を追ってまとめてみます。

平成 17 年

2 月: 大学の教員会議で同窓会への対応を協議し、新卒業生に対し、会費徴収を含めた改革を行い、横国化学

会の財政基盤を確立しました。この整備により横国化学会の歳入が安定し、本格的な同窓会活動に向けての足がかりが得られるようになりました。これを受けて横国化学会の将来へ向けての展望がある程度見えてきたという判断の下、応化会、電化材化会でも統合化への動きを具体化させることとなりました。

4 月: 応化会、電化材化会で、本格的な統合化の話合いがもたれる。応化会で「横浜応化会 3 ヶ年事業基本計画」で明示してある一体化の基本方針に沿って、横浜応化会会長副会長会で一体化へ向けての検討が行われ、電化材化会との話し合いの場を設けることを決議される。一方、横浜電化材化会常任幹事会にて、応化会および学内教員の考えを検討し、一体化へ向けての活動を行うことに合意が得られる。ここで WG の発足と 3 同窓会合同の会議 (キックオフミーティング) を持つことが決まる。

5 月: 応化会樋口会長、電化材化会阿部会長の意見交換実施。以下の合意がなされた。

1. 3 会統一化を推進することを基本方針とする。
2. 先ず、キックオフミーティングを開催する。
メンバーは 3 会の役員……応化会で言えば会長副会長会メンバー
3. 具体的検討を行なう WG を設ける。
 - ① 電化材化会は、学内 2 人・学外 2 人の 4 人。
 - ② 応化会は、・榊原副会長・関学内庶務幹事・苗村副会長・松本副会長
 - ③ 横国化学会は会長ら 3 名

10 月: キックオフミーティングの開催。3 会の役員が初めて、席を一にして議論を行う。11 月の総会で統合化の了承を得る、大学への理解を諮る等の決議を行う。

11 月: 合同総会の開催。統合化に関するアンケート結果から早期統合化への会員の意思が確認され、19 年 4 月に統合同窓会の設立を目指すこととなる。

平成 18 年

9 月: 大学教員会議において同窓会の統合化の説明を行い、会則原案の検討、同窓会の現状把握、協力要請をする。とくに、現状からの変更点として、現職員の正会員化に関して了承を得る。

10 月: 3 同窓会合同役員会にて、合同総会の原案を議論し、了承を行う。

11 月: 合同総会にて統合同窓会の役員、会則、運営内容の承認がなされた。この間、WG が計 11 回に及び開催され、以下の点を中心に検討し対応がなされた。

1. 3 会の現状把握と合同に伴う問題点の洗い出し
2. 合同化後の体制、組織、会則等の骨子作成

3. 応化会, 電化材化会, 横国化学会への対応および説明
4. 大学職員への説明と協力依頼 同窓会との関係強化
5. 事務の一本化へ向けての検討, データベースの構築

12月: 統合化準備WGが新たに結成され, 会合が開かれ以下の項目の検討を行った.

1. 合同発行する会誌・会報
2. 会員名簿
3. 4月以降の会誌・会報
4. 顧問の選任
5. 07年度予算

6. 会費関連事項
7. 07年度の総会等
8. グループの担当明確化
9. 新年度の役員会等の開催
10. 新旧合同役員会の開催

平成19年3月: 引継ぎ役員会の開催

以上が設立の軌跡です. ほぼ3年間にわたる関係者の御努力の一端を紹介させていただきました.

今後も同窓会幹事の諸氏は同窓会, 同窓生, 大学のトライアングルの形成に真摯な活動を続けていきます. 会員の皆様には更なる御支援と御理解をよろしくお願いいたします.

三同窓会一体化時の保有財産の取り扱い

榊原 和久（昭和50年応化卒）

平成18年11月4日（土）の各同窓会総会において、すでに説明がされていることではありますが、横浜応化会、横浜電化材化会、横国化学会の3同窓会が平成19年4月1日から一体化され、国大化学会という新しい同窓会組織が発足いたします。その際、上記3同窓会が保有する財産をどのように継承し、有効活用するかについてワーキンググループ（WG）で検討してまいりました。その結果についてここであらためて、ご説明させていただきます。但し、説明に使用する数値は、2006年3月31日現在の財産数値で試算をしたものでありますので、実行時の数値は当該更新数値での計算結果によるものとなります。

1. 財産保有状況

3同窓会の財産保有状況は下記のとおりです。いずれも、預貯金等を含む現金であります（固定資産等は無し）。

・横浜応化会	21,930千円
・横浜電化材化会	10,070
・横国化学会	2,200

2. 会員一人当たり財産

上記の各会保有財産を、会員一人当たりになると下記のようになります。

・横浜応化会	8,650円
・横浜電化材化会	5,600
・横国化学会	990

3. 新同窓会への繰り入れ

- ① 新同窓会には、
 - ・横浜電化材化会（10,070千円）と横国化学会（2,200千円）は、それぞれの保有財産の全額を繰り入れることと致します。

- ② 横浜応化会については、
 - ・会員一人当たりの繰り入れ額を、横浜電化材化会と同額の5,600円とした額（5,600円×2,535人）14,200千円を繰り入れることと致します。
- ③ この結果として、
 - ・新同窓会発足時の保有財産は、26,470千円となります。

4. 横浜応化会残余財産の取り扱い

- ① 上記のように新同窓会への繰り入れ処理を行うと、
 - ・横浜応化会のみが、7,730千円の残余財産を保有することになります。
- ② この残余財産（7,730千円）については、
 - ・新同窓会での予備的経費として
 - ・大学（教職員・学生を含む）への有効な支援を行う〔大学支援特別基金〕としての活用を図る等、的確な運用を期していく予定です。

*ただし今後、年度末までの間に各同窓会が活動を円滑に終息させるための運営資金が必要となること等もあるため、年度決算の結果を以ってこの計算を再度行い、繰り入れ額及び基金額を確定することと致します。

3同窓会をこれまで支え、運営してきて下さった諸先輩達が蓄え、残して下さった保有財産は、上記のように、今後の新同窓会および、大学での教育・研究活動に有効に活用し、利用して行きたいと考えております。新同窓会組織の国大化学会の一員となる皆様方の、ご理解と今後のご支援を宜しくお願い致します。